【荻野地区】令和6年度あつぎタウンミーティング実施結果

日 時: 令和6年7月26日(金) 午後7時～午後8時
 会 場: 荻野公民館 2階集会室
 参加者: 地区の自治会長(28名)、公民館地区館長、公民館地区分館長
 市長、副市長、教育長、企画部長、企画部次長、総合計画担当課長、公民館・地区市民センター長

自治会長からの意見	市長等からの回答
意見1 交通対策(バス経路改善・コミュニティバスの検討)について	
<p>【久保自治会】</p> <p>■交通対策においてバスに絞って2点を提案します。 1点目は新道経由バスの増便です。最近「久保」バス停で昼間のバスが1時間に2～3本で便が少ない旨の苦情が出ている状況です。原因は、乗る人が減ったことが主な要因です。乗車が少ないのは本厚木駅まで行くのに時間が掛かることも原因とみられます。上荻野の人がバスに乗るのは、本厚木駅方面が多いです。本厚木方面に行くのに早く行ける新道があるにもかかわらず、わざわざ旧道をバスが行くため、遅くなっている状況です。自家用車は、新道を通って早く本厚木方面に行くことができ便利というわけです。愛川町などの要望で、朝夕に関しては、新道経由のバスが出ていますが、昼間も新道経由をメインでたくさん設定してほしいと考えています。それによって、バスの利用が増えることにつながるかもしれないです。 2点目は、コミュニティバスの検討です。荻野地区にも「真弓」「用野」などバスの便がないところがあります。そこで厚木市でも「コミュニティバス」を検討してもらいたいと考えています。 近隣市でもコミュニティバスが定着しているところがあります。今後の市の取組について、お聞かせください。</p>	<p>■新道経由のバスの増便ですが、現状、コロナ禍において生活スタイルが変化し、路線バスの利用者はまだ8割しか戻っていない状況です。また、神奈中バスの運転手不足問題による減便の課題もある状況です。制度を作ってもバスがなければ皆様方の健康増進につながりません。神奈中と相談しながら、運転手不足の解消に向けて、しっかりと応援していかなければならないと思っています。バスの増便についても神奈中と相談し、より増便ができるようお願いしてまいります。 今後においても、皆様方がより生活しやすい環境と生活の足として神奈中バスを利用していただくよう取り組んでまいります。 コミュニティバスについては、すでに荻野地区において走っているところですが、高齢者の日常の生活の足としてもバスは大変必要であると思っています。公共交通不便地域等は地域に確実にあるので、今後も皆様方の御意見をいただきながら、検討してまいります。</p> <p>(担当課: 都市計画課)</p>
意見2 自治会活動を通じて感じていること	
<p>【丸内自治会】</p> <p>■自治会活動を通じて感じることに、安心・安全セーフコミュニティ活動があります。日本は世界的に見て治安の良い国ですが、昨今は治安の悪化が懸念されております。この活動には、住民の協力とモラル、さらには意思疎通が不可欠であり、特に地域社会のつながりが希薄になっている中で、犯罪防止や自然災害発生時には極めて有効かつ、重要な要件となります。しかしながら、自治会を解散するというケースが発生いたしました。自治会の運営には、自治会運営に支障または継続困難が生じた場合、単体で判断せず、住民の意見を聞き、自治会連絡協議会に相談し、近隣自治会との協力や統合等を含めた対策をして、住民が個人で対応できない問題や孤立しないように配慮すべきであると考えます。</p>	<p>■鳶尾2丁目の解散について、私も大変に衝撃を受けたところですが、経緯があるものの、市としても自治会の支援に努めていかなければならないと改めて認識をしているところです。先程、鳶尾4丁目自治会長からこれから鳶尾2丁目自治会をもう一回再構築していきたいという非常に有り難いお言葉をいただきました。我々行政も共に汗を流し、再構築に向けて取り組んでまいります。現状、自治会は解散をしてしまっている状況ですが、住民の方々が困らないよう行政として、しっかり心を寄せながら、あらゆる課題に我々も手を差し伸べて取り組んでまいります。また、皆様方の御意見等をいただき、支援してまいります。</p> <p>(担当課: 市民協働推進課)</p>
意見3 自治会活動を通じて感じていること	
<p>【鳶尾4丁目自治会】</p> <p>■自治会の解散の話がありましたが、鳶尾2丁目自治会が、3月に解散という事例が発生し、その解散する1年前に鳶尾2丁目の自治会長から荻野公民館に話があり、私と市民協働推進課、鳶尾2丁目自治会の3者でその経緯を聞きました。自治会が存続しなくなったことで一番怖いことは災害です。我々自治会長としてリーダーシップをとれるかが大切で、自治会長として自覚とそれ相当の熱意と度量が必要です。これからの高齢化社会、ますます自治会長は努力しなければならないと思います。この事例がありまして、私も反省をさせられました。寺田寅彦の有名な言葉で「天災は忘れた頃にやってくる」という言葉があります。横の繋がり、縦の繋がりを太くしないと、荻野地区は大変なことになると思いますので、しっかりともう一度、原点に戻って鳶尾2丁目自治会を再構築したいというのが私の考えです。少しでも前に進めていきたいと思っています。</p>	

意見4 これからのまちづくりに必要なもの(市の歴史を共有する機会、市民が誇れる文化施設、災害に強い体制の構築、自治会館について)

【鳶尾4丁目自治会】

■1つ目は、地域や厚木市の歴史を共有する機会を増やすことです。歴史を語る会とか、写真を展示し、歴史を伝えていくことで、住民のふるさとへの思いを強くすることができます。8年前の発足当時から歴史の会に参加させてもらっています。やっぱり後世に伝えることは大事なことです。

それから市民の誇りです。何度でも訪れたい、行ってみたいとわくわくするような文化施設でイベントが開催されると良いと思います。

2つ目は、先日の能登半島震災がありましたように、いつ大災害が発生するか分かりません。災害に強い体制の構築。常日頃から隣近所同士で助け合うことが大切です。以前から、「向こう三軒両隣」という言葉がありました。

しかしながら、核家族化し、現在、近所付き合いも希薄な世の中です。やはり昔の格言を大切にし、お互い様の精神が大切で、お互いに支え合う精神、意識、行動を育む取組が大事ではないかと私は感じています。

鳶尾4丁目は、自治会館が現在ありません。旧荻野公民館の2階は、今、空のスペースになっています。以前も提案していますが、行政の回答では、築50年以上経ち耐震対応がされていない2階を使用するのは不可能と回答があり、私も諦めていました。

しかし、それから少し経ち、自治会内でたまたま空き家が発見されました。所有者の方は、東京に住んでいて土地を貸しても良いですという話がありましたが、行政が間に入っていたら、自治会が所有者と契約を結び、自治会で使用できたら良いと考えています。また、少しでも行政に費用を支援いただけないでしょうか。

また、自治会の加入率ですが、今、厚木市の自治会は加入率は約5割程度です。鳶尾2丁目自治会が解散し、会員数が昨年に比べて減少傾向にあり、その原因は高齢で退会することが多いかもしれません。自治会長と行政がタッグを組み自治会のPR活動をし、取り組んでいくことが重要です。私の自治会ではベトナム人が4名加入してもらいました。時代が国際化されていますので、多国籍化により仲良く共栄の社会の地域を築いていくことが、これからの厚木市にとっても大切なことだと思っています。

■気軽に寄り添える居場所となる自治会館ですが、空き家をどういった形で自治会館として利用できるのか、調査をさせていただければと思っています。先程、旧荻野公民館2階のスペースが築50年という話がありましたが、現実的にどんなことが可能か空き家も含めてもう一度研究させていただきます。

そして、自治会の加入率についても、市内全体が下がってきている状況です。分母が多くなれば加入率も若干下がっていくところもあります。大きいマンションができると分母数が多くなり、加入率が低くなってしまいうところはあります。一戸建て住宅等の加入率をしっかりと上げていくことは、我々の課題ですので、皆様方と協力しながら上げていきたいと思っています。

昨日も相川地区でタウンミーティングを開催させていただいた時に、上落合の自治会会長から、いろいろなイベント等を行っているチラシを作成し、配布されているとの話がありました。また、林の自治会においても、子どもたちを対象に無料でバーベキュー大会を開催し、子どもたちが参加することによって、若いお母さんやお父さん方も参加しやすく、そして顔と顔がつながることによって自治会に加入していただけるのではないかと考えています。回数を重ねることによって、絆を作っていくわけです。遊びをすることによって、多くの方々がより一層加入していただけるきっかけがそこにたくさん生まれてくるのではないかと考えています。

(担当課:危機管理課、市民協働推進課、文化魅力創造課)